

# PHD LETTER

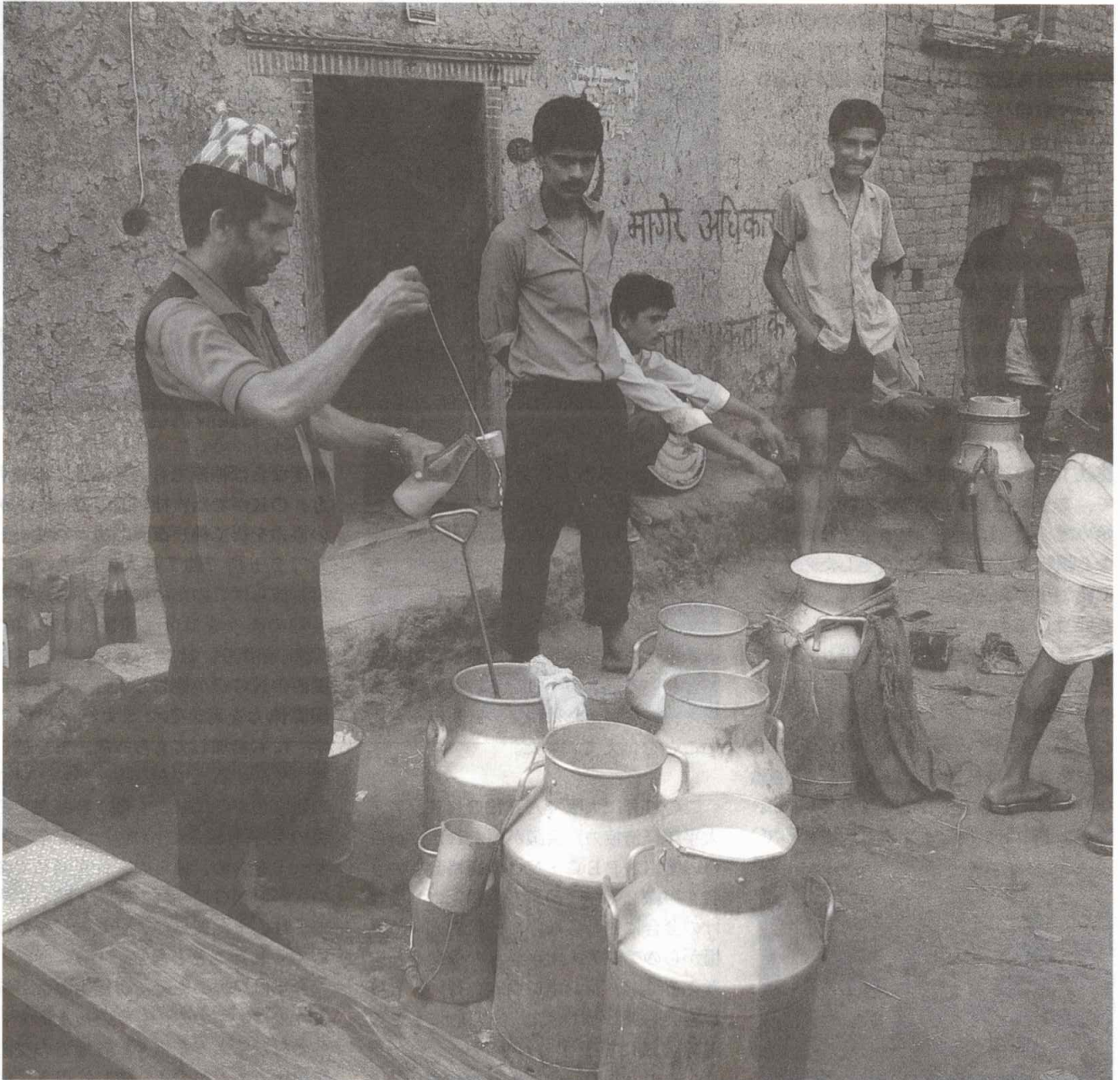
## 57

PEACE・HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT 1995・12

- パプア・ニューギニアの村と神戸・大阪が音楽でつながった… 2 P
- 開発教育ゲーム第2弾 …………… 6 P

PHD運動とは1962年より約20年間、ネパール、東南アジアを中心とした発展途上国で医療活動に従事した岩村昇博士の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和づくり(Peace)健康づくり(Health)を担う人材をつくる(Human Development)運動を世界中にひろめることを目的として、1981年からじまりました。

発行:財団法人PHD協会  
 編集人:草地賢一  
 住所:〒650神戸市中央区元町通5-4-3 元町アーバンライフ202  
 TEL(078)351-4892 FAX(078)351-4867  
 郵便振替:01110-6-29688 財団法人ピー・エイチ・ディー協会  
 定価:100円



ネパール、カブレ、クンタ村

朝、しぼった牛乳を村人が  
 街道の市場の一角に運んでくる  
 濃度を調べて受け付ける  
 時々水増しがあるからね  
 と係のおじさんは笑った

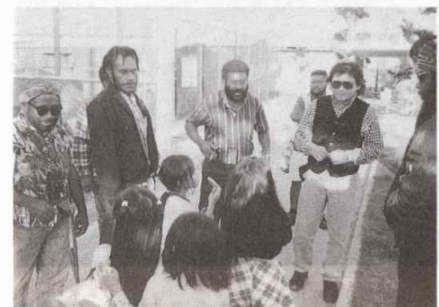


# パプア・ニューギニアの村と神戸・大阪が音楽でつながった

海外に出て、いろいろなところをまわっていると面白い人物に出会える。93年末から94年の春にかけて、南太平洋の国をいくつか訪ねることができた。そのひとつパプアニューギニア（PNG）では、帰国した研修生の住む村でこの国の大人気レゲエ・バンドのメンバーにたまたま出くわした。

彼の名はカスパー・クンプ。モロベ州フィンチャーフェンを8期研修生ヘルペさんの案内で農村をまわる途中寄った店の前で立ち話が始まり、彼がREKS BANDという名のバンドの一員であり、プロとして演奏していると聞いた。PNGのポップスなんて日本では聴こうにも聴けないし、プロといってもたいしたことなかろう。なぜなら首都ポートモレスビーから飛行機と船をのりついで2日ばかりでたどりついた田舎のタバコ屋の前での話だし、見た目も他の村人とかわらないとタカをくくっていた。

ところが話が進むうち、既にアルバムを4枚発表しており、93年秋にはPNGのトップ20というヒットチャートに13週連続1位のヒット曲を送りこんだといわれて、こりゃひょっとすると本物かと思いはじめた。ならばそのカセットを聴かせてよと頼むと、もってない。そしたらナマで聴かせてよと頼むと今度は楽器がないという。これで話はホラで終わりかと思ったが、明日ならギターを借りられるという。バンドの名前の由来が結成時、楽器がなく空き缶を叩いて練習していたことから英語のwreck（残骸）のピジン語化した言葉rekにあるというからムリもないけど。そして1日たってカスパー氏はバンドのドン氏とボンガス氏を伴って



神戸市長田区の仮設住宅を訪ねたバンドの一行

泊めてもらっていた部屋にやってきて、生ギターで数曲聴かせてくれた。期待したり、スカされたりしたもの、実際に音を聴いて信用した。

そして町に戻り、カセット屋に行けば

ちゃんとありました、4種類でました。彼らはプロでありながら町で生活せず、生まれたところフィンチャーフェンに住み続け、日頃は畑にでかけ、海に漁にでかける生活を営んでいる。そして最大のヒット曲「SWIT FINSCH」はアテもな



伝統的な衣装とモダンな音楽のレックスバンドのステージ

くマチにでる若者に故郷フィンチャーフェンに帰ろう、と歌っている。また「MAGIE SAVA」という曲では急激に村の生活に入り込む外国の経済・文化に対する疑問を歌っている。これはPNGにあるいくつものNGOが訴えているテーマに一致するものであり、単にPNGの文化紹介という以上のものをもった人たちに思え、機会があれば将来、日本に招きたいことを伝えておいた。

この11月に大阪でAPEC（アジア・太平洋経済協力）会議が開かれた。NGOの側もAPEC・NGO連絡会という会を組織して、政治家、企業家の立場だけの会合に終わらない、一般の人々の立場からのアジア・太平洋とのつながりを考える会議、シンポジウムを行い、PHD協会も加わってきた。また他にもこの国際会議に協賛する行事がいくつかあり、そのうちのひとつ「大阪大航海」という文化紹介行事の出演者にREKS BANDを薦めたところ、話がまとまり10月に総勢7人が来日することになった。

この知らせは、バンドメンバーのみならず、彼らと同じ地域に住む研修生や村人、研修生を推薦する団体LDSの人たちを喜ばせ、特にヘルペさんからはパン

# 草の根の人々を訪ねて

Report from Asia and South Pacific

ドと一緒に日本に行けないかと手紙が来た。

研修生を招く縁から音楽を通じてより多くの人たちにPNGを、そしてその人々を知って欲しい。これを大阪の3日間の催しだけではもったいないと思い、

可能ならば神戸でもと主催者に相談すると、OKがでた。神戸国際協力センターの協力を得て神戸復興応援コンサートとして2ヵ所で約7百人の聴衆の前で演奏。彼らはこのためにわざわざ地震の被災地の人々をはげます歌「KOBE TOWN SONG」を作り、披露してくれた。さらに関西のNGOが協力して行う1泊2日の国際協力を考えるセミナー「NGO大学」にも参加してもらった。また彼らが村で生活する人であることから、いつもの研修生が学ばせてもらう有機農業の現場の見学も組みこんだ。大阪でのコンサートを含め、彼らの来日を通じて多くの人がPNGにふれ、興味・関心を持ってくれ、また彼らのメッセージを受けとめてくれたことと思う。

今年は震災の影響で研修生の数が例年より少ないものの、こういった形でも海外の村から人々を招き、各地での交流を実現することができ、嬉しく思う。彼らにとってもこの来日が大きな経験となったのではないと思う。ひょっとすると次作にはこの来日経験からの曲が入るかも。楽しみだ。

主任主事 藤野 達也

56号の会報でも一部ご報告していますインドネシア・西スマトラへのツアー。参加者からのレポートを抜粋でお届けします。10月上旬のスマトラの地震は研修生の村には被害はなかったようです。

日程 95年8月18日～29日 11泊12日  
行程 大阪～シンガポール～パダン市～パシルバルー村～アイルバンギス村～プキティンギ市～パダン市～シンガポール～大阪  
参加者 11名

「研修生の皆さんありがとう」  
(兵庫県安富町  
ハスマヤニ滞在家中)

つきのわ 月輪 ヒデ子

村々の温かい人々の心に触れ、嬉しく思いました。家々では近隣の微笑ましい交わりの中でヤギにもわとりもチャボもねこもすべて人畜共存の光景を見ました。特に家族みんなの素朴さと子供たちのつぶらな瞳はととも印象的でした。

遠くて近い国（心に）インドネシア。私たちが今後研修生と共に生きる立場を思うとき、お互いがどう関わって協力してゆけるのか、私にとって多くの課題と反省の残った感じの旅でした。

## 「弟子を訪ねて」

(島根県宍道町 漁業  
サムスアリス研修指導)

やまだ よしほろ 山田 義治

此度のツアーで先ず我が家に研修に来ていたサム君の其の後の事も気になって居ました。サム君、また子供一人生まれまして8人の子供。子供が好きである私には羨ましい限りである。それにしても子供達のそこぬけの明るさ、我々の子供の頃を思い出した。私も漁業を始めて今年で54年、戦前の宍道町での漁業体系と良く似ている。私達も戦前（昭和10年代）協同でやる事が多かった。

## 「みんなのんびりでうらやましい」

(島根県宍道町 中学生  
サムスアリス滞在家中)

やまだ だいご 山田 太吾

パシルバルーは電気が付いてから5年ぐらいたそうです。日本はやたらに電気を使っているこれでよいのかと思いました。そこでは、大便は海でするのでおどろきました。それに風呂は井戸で行水でした。井戸の中には、魚が入っていました。なんでかという、ボウフラが出ないためだそうです。ぼくはとてもおどろきました。家の中にもねこが入ったり、にわとりと一緒に住んでいて、みんながのんびり生きていました。うらやましい。

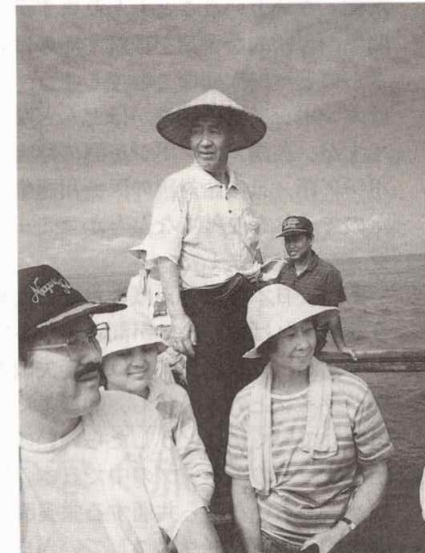
「遠くて近く、近くて遠い島、スマトラ」  
(横須賀市 語学講師)

かわの りょうこ 河野 亮子

一番の思い出は、何といっても私にとって旅（旅行とはあえて区別）の醍醐味である、そこで暮らす人々と生活する機会を持ったパシルバルーでの2日間です。村全体がお互いに助け合いながらそ

# 第9回インドネシア フォローアップ&スタディツアー

の日その日を楽しみ暮らし、彼らは温かく純粋、素朴でした。インドネシアの後訪れたシンガポールでは「日本の生活に戻るための免疫作りね」と笑いながら、街のせわしなさ、過度の電氣化に疲れ、悲しくなりました。



パシルバルーで漁船に乗り、港へ来たメンバー。右端は5期生アリスさん。

「ツアーからはじまった」  
(神戸市 中学生)

ふじむら 藤原 加織

私は今回初めて旅行に参加しました。その感想を一言で言うなら「とても楽しかった」ということです。友だちになったお仲間の方やラッドさん、ヤニさん、お世話になったエニさん、本当に感謝の気持ちで一杯です。これから忙しくなっていくけど、またPHDの関係のことに参加したいと思います。

「自然の循環の摂理が・・・」  
(姫路市 公務員)

まえだ みちこ 前田 生子

一番の驚きは朝の海でした。どうして男の世界(?)であるべき海に老若男女が出てきているのかと頭を傾げました。まもなく分かったのは人間の自然の営みがそこに見られたことです。黄金の見事

な糞の小山そここちに、そしてお尻は海の波がきれいに洗っていました。それを放し飼いにされた鶏がしばみ、海の水が沖へ運びやがては魚の栄養にもなるのでしょうか。その魚を人間がいただくという自然の循環の摂理をそこに見ました。

衛生問題等考えねばならないことは沢山あるが、日本人の私達は自然との共栄を今一度反省せねばと・・・。

「半年ぶりの再会」  
(三木市 会社員)

ひろせ くにしげ 広瀬 国重

ラディアエリタ滞在家中) 空港の出入口の人影から出迎えるの女性と思われる姿が「おかあさん」と叫びながら駆けて来た。そして月輪さんに抱きつき、お互いを確かめ慈しむようにさらに強く抱き締めあった。なんと微笑ましい光景。私も辺りをまた遠くの人影を凝らしてみるも、ラディアエリタの姿を確認することは出来なかった。また後で会えると言いつつ聞かせ、空港の建物の中へ入っていく。ホテルに到着、ロビーで「おとうさん、よしこ」との呼び声ではっと前面を見ると「ラッド、ラッドやないか」一瞬言ってしまった。なんとなく面映ゆい気持ちと懐かしさがいっぺんにきた。そこで三人一緒にビデオに納めてもらった。

## 「村がひとつの家族」

(三木市 専門学校生  
ラディアエリタ滞在家中)

ひろせ よしこ 広瀬 善子

パシルバルーを見た時、村全体が大きな家族のようだった気がします。日本を振り返ってみると、家の隣人を知らなかったり、家庭内での問題があったりと考えると、どちらが良いかわからなくなってしまう。また自分でも考えてみたいと思います。

「またいつか会ってみたい」  
(尼崎市 教員)

おかもと まさき 岡本 正樹

雄大なインド洋を前に、時間に追われて過ごす日常生活から完全に抜け出すことでいろんな事を考えることができた。経済的な豊かさや心の豊かさは比例しないのだろうか。21世紀の日本はどんな国になっていくのだろうか村で出会った子供たちの純朴さには感激した。何もなければ豊かな島、そして村。5年後、10年後にまたここに来て村の風景、そして子供たちと会ってみたい気がする。



日本語研修を終えたカエウさんとビショさんは、ようやく実地研修に入り出身地域との文化、生活の違いや言葉の壁に苦労しながらも元気に学んでいます。

例年とくらべ、時期の設定がずれていますが、年内は出身地域の農業や健康上の問題を明確にし、日本での研修テーマを絞り込んでいくことが中心となるでしょう。

### チル・カエウさん（カンボジア）

三木市健康福祉部健康課・兵庫県三木保健所／芝美代子氏宅（兵庫・三木市）～市川町立瀬加保育所／牛尾武博氏宅（兵庫・市川町）～高砂市保健センター・兵庫県高砂保健所／船田昭信氏宅（兵庫・高砂市）

三木市での研修が終わる時に、ご指導いただいた保健婦さん、栄養士さん他職員の方々とカエウさんを交えて反省会を行いました。

——2週間カエウさんはどんな様子でしたか。

三木 とても熱心に取り組んでくれました。いつも、ニコニコと素敵な笑顔でみんなと接してくれて楽しかったです。また、こちらが学んだこともたくさんありました。私たちはカンボジアをはじめアジアの実情をほとんど知らないままでしたことが



機能回復訓練に参加

よく分かりました。ポルポト時代にはカエウさんもだいぶ苦労したようですね。

——カエウさんは具体的にどんなことを学んだのでしょうか。

三木 だいたいこちら側の事業に同行してもらいながら、健康管理の方法、住民へのサービスを具体的に覚えてもらいました。一回目の実地研修なので無理に詰め込んでいくのではなく、いろいろ観察していく中で、カエウさんが研修テーマを絞っていけるように考えました。

——その中でどんなことにカエウさんは関心を示していましたか。

三木 まず、料理と子供が好きだということです。震災の仮設住宅での昼食サービスを地域のボランティアの方々と行った時も、率先して調理に参加してくれました

し、乳幼児のいるお母さん対象のプログラムでも、ニコリと笑ってみんなの輪の中に入っていました。それから、「6つの基礎食品」の分類表をカンボジア語で完成し、どの食品にどんな栄養が含まれているのか、そしてそれがどんな役割をするのかについて、しっかりと理解してくれました。

——研修中何か困ったことがありましたか。

三木 やっぱり言葉です。来日してからまだ間もないということもありますが、保健関係の専門的な言葉を理解するのはカエウさんにとって大変なことでしょう。日本にはカンボジア語の辞書がほとんどないのですが、英語／カンボジア語の辞書、カンボジア語／日本語対訳の医療用語集があったのでそれを使ってなんとかコミュニケーションをとりました。

また、日本では例えば太らないためにどう注意すればいいのかが問題となっているのですが、カンボジアでは栄養失調のボーダーライン上の人が多く、効率よく栄養を摂取していくにはどうしたらいいのかが問題です。そのギャップの中で日本の現状も知ってもらいながら共通する栄養改善の基礎的なところを掘り起こしていきました。6つの基礎食品の分類表はその最も大切なところ。

～カエウさんの感想も聞いてみました。

——何を勉強しましたか。

カエウ たくさん勉強しました。全部は分かりません。だけど栄養のことは良かったです。私は赤ちゃんの栄養の勉強が一番好きです。

——楽しかったですか。

カエウ とても楽しかったです。みんなとたくさん話一すことができました。保健所の所長さんはカンボジア語上手です。たくさん覚えられました。私教えました。

日本語に苦労しながらも、研修先の皆さんに暖かく迎えられ、いろいろな発見をしながら問題点を深めつつあります。

来日当初、日本語が全く分からない時か

# 研修生レポート

ら、何がおかしいのかとばかりカエウさんから笑顔が絶えることはありませんでした。まだしばらく慣れるのに時間がかかると思いますが、持ち前の明るさと意欲で乗り切って欲しいです。

### ビショジョティ・サプコタさん（ネパール）

田中五郎氏（兵庫・波賀町）～渡辺省吾氏（兵庫・丹南町）～中野宗嗣氏（兵庫・春日町）

ネパールでは、サム・セワ・サムハ（社会奉仕グループ）というグループで主に会計業務を担当し、また家族で農業を行っているとはいえ実際のほとんどの作業は奥さんと兄弟、両親が携わっているとのこと。実際の農作業の中からはいろんな技術、取り組み方等をヒントにしなが組み合わせていくPHDの実地研修の方法にビショさんは少しとまどっている様子です。また、ネパールの習慣、文化と日本のそれとのギャップにまだ慣れていないということが原因でしょうか。

これまで、稲作、養鶏、野菜、酪農、堆肥づくり等をいくつかの農家にお世話になって学んできました。ビショさん曰く、「とにかく日本の人たちはよく働く、ネパールでは5時間しか働きません。日本ではおじいさん、おばあさんになっても元気



有機野菜の栽培を学ぶビショさん

に働いています」と半分驚いている様子。それでも、各研修が終わってからいろいろ話してみると、有機農業の実践を比較していたり、生産者グループの運営について関心を示していたり、彼なりにヒントになりそうところはチェックしています。

特に丹南町での有機農業に対する生産者と消費者の取り組みに興味を持ったようです。丹南町では約20人の生産者が集まっ

て、有機農法による野菜、鶏卵、米等を共同出荷しています。阪神地域に消費者のグループがいくつかあり、そこに直接販売しています。消費者側も、時折同町を訪れ農作業を手伝ったりしているそうです。

ビショさんが渡辺さんのお宅で研修をしている時にこの消費者の方とお話する機会がありました。「どうしてマーケットで野菜買わない？」というビショさんの質問に対し、その方は「渡辺さんの野菜は農業や化学肥料を使わないから栄養がたくさんあって、健康にとってもいいから」と答えてくれたそうです。わざわざ農作業の手伝いまでして有機農法による野菜を購入する消費者がいることがビショさんには新鮮だったようです。ただ、ネパールで実施しようとしても、まず生産者のグループを組織していくことが難しいとのこと。農業技術上の問題、意識の問題、また農産物を市場まで運ぶための基盤整備が不十分であること等々たくさん問題があるのが現状のようです。そんな中でもビショさんは時間をか

けて生産者グループをつくりたいと話してくれました。

また、研修中にいくつかの学校や地域の人々との交流会に誘っていただきましたが、小学校の教員をしたことがあるためか、自己紹介、出身地域の紹介を立派にこなしていました。

### 国内研修生・紹介

谷 朱子さん



<23才・女性>

PHDのプログラムや研修に今まではボランティアとして参加していました。

開発教育について、農業とくに有機農業について、また日本にいて出来る国際協力について学ぶために9月からPHDで研修をします。53号と今号のすごろくづくりに参加。

## 人と人をつなぐ旅を ～国内研修4ヵ月を終えて

今年の春から新しい試みとして行っている国内研修。8月いっぱいまで研修した宮田早夏さんは4ヵ月の研修後、大阪の旅行社に就職されました。PHDでの学びをここでも活かしてもらいたいと願っています。

私は、海外旅行は一つの国際交流の場であり、異文化を知る有効な手段であると考えています。そして、異文化を知るということは、自分自身の文化、社会を知る、見つめ直す、ということにもつながると思うのです。また、異文化と自分自身の文化とのつながりを考える機会でもあると思います。そのような思いをもう少し深めるため、私はPHDの国内研修生となりました。

事務所内での研修が主でしたが、その中で学んだことに、次の2つがあります。1つ目は、直接お会いしない人とのやりとりから学んだことです。出会ったこと

の人のことを考える。これほど難しいことはありません。いろんなケースを想定し、判断しなければならないのです。PHDは一般の企業とは違い、とくに人と人とのつながりを大切にしています。そのつながり一つ一つに対する接し方を知り、私は、自分だけを基準にするのではなく、いろんな場合を考え、相手の人のことを考えるということを学びました。

2つ目は、直接お会いし、話をする機会のある人、つまり、事務所を来訪される人とのやりとりから学んだことです。事務所のお手伝いこられる人、ひとくちに来訪といってもその目的は様々です。いろいろな人がいて、色々な関わり方をしていて、それでPHDというものがあるのです。これは社会全体にもいえることでしょう。そして、もちろん私自身も、いろいろな人に支えられて生きています。

今まで頭でわかっているつもりでいても、人に感謝して生活していなかったよう

レックス・バンド（ババア・ニューギニア）  
淡路島モンキーセンター（兵庫・洲本市）～灘小学校／山口勝弘氏（兵庫・南淡町）～広石教会／勢造博之氏（兵庫・五色町）～青位真一郎氏（兵庫・八千代町）

レックス・バンドの一行は1泊2日で研修指導者の有機農業等の実践を視察しました。モンキーセンターではハンディを持った猿から残留農薬、食糧自給の問題について、また山口さん、青位さんからババア・ニューギニアでもできそうなシンプルな方法による有機農業や複合経営の取り組みがあることを知りました。

彼らにとっては、どうしてわざわざ危険



モンキーセンターで猿から学ぶバンドの一行

とわかっていながら外国から食糧を買わなければならないのか不思議だったようです。けれども、山口さん、青位さんのような形で有機農業に対する取り組みがあることには共感していました。メンバーの一人は、青位さんの平飼い養鶏は大変参考になったと話してくれました。

に思います。それが、直接の関わりのない人にも感謝できるようになりました。そして、いろいろな人と接しているうち、だんだん自分が丸くなってきて、良い意味において、自分は自分、相手は相手と考え、相手の考えを受け入れやすくなったことに気付きます。

「国内研修生って何」という質問をよくされます。今まで自分自身うまく説明できませんでした。おそらく、神戸の事務所でお会いした人も、実際の私の研修風景をご覧になり、どのような研修をしているのかよくおわかりにならなかったと思います。しかし、上記2点の他にも多くを学びました。その多くをこれからいかに生かすかが私の今後の課題だと思っています。「旅行」という分野においては、人と人とのつながりを大切に考えていきたいです。

みやた 早夏



# PHD開発教育ゲーム第2弾・開発すごろく

## 「いっしょにやろうよ! 村づくり!!」

### 「日本で研修はじまったのだ〜♪」編

お待たせ。1年ぶりに開発教育チームの企画がやってきました。PHDの開発の真実を伝える。2弾おもてな

ふりだし  
参加者は東南アジアの村の青年になって問題に対処して下さい。  
第1弾で私はPHDと出会い研修生として日本へ行くことになった。  
☺☺☺パスポートを取るため村から首都にのるのに時間とお金がかかる。 1回休み  
☺☺☺入管で質問攻めにあい、なかなか入国できず不安になる。 -1

日本では研修はじまったのだ〜♪  
ホームステイ先から日本語教室へ電車で通う。  
☺☺快速に乗ったため降りたい駅に止まらなかった。 -1  
☺☺乗り間違えて、複数の線が乗り入れているところに入り込みパニック。 -2  
☺☺電車1本だけなので大丈夫 +1

満員電車で疲れ  
1回休み

いよいよ6週間の日本語研修開始。  
☺☺私はおしゃべりなので会話の上達が速い +2  
☺☺「キレイ」と「キレイ」を間違えて娘さんに『あなたとってもキレイです』と言ってしまった。 -2

研修先の役場で独居老人のための給食サービスのことを知った。  
一人でも暮らせる日本のお爺さんと、家族大勢で暮らす村のお爺さん。どっちが幸せなのかな?  
考え込んで1回休み

カレンの布のしおり、入れてよかった!  
久しぶりに会報に同封した布のご案内に対して、いろいろなところからお問い合わせをいただきました。新しく会員や協力者になって下さった方にカレンの布に出会っていただけたのではないのでしょうか。  
バザー出店や委託販売などで、ご協力いただく方、ご購入いただく方の中には、きれいだけど、大きな布は何に使えるのかしら、という思いを持たれる方も少なくありません。大きな布は、村で婦

食生活が大きく変わった。  
☺☺日本のご飯が口に合う。 +1  
☺☺宗教上の制約があり食べられないものが出てくる。 ±0  
☺☺国のご飯がちょっと恋しい。 ホームシックで 1回休み

日本語研修も終了。いよいよ兵庫県内の農家で実地研修開始。  
来日前は日本の農業は機械や薬をたくさん使うと思っていた。私の村でそんな事ができるのかとても不安だった。でも、農業を極力使わない有機農業を知った。工夫すれば村でも出来そうだ。 +3

サイコロを振って出た目の数だけコマを進め、指示のあるマスにとまったら声を出して読み上げ、再びサイコロを振り、出た目の数により指示に従います。最終的に点数が高い人が勝ちになります。着順により1位5点、2位3点、3位1点が加算されます。

あがり  
保健所で研修を受ける。  
病気の治し方に興味があったが、病気になりにくい身体や環境を作るのが大切なんだ。  
研修の後半は栄養や衛生についてももっと勉強するぞ! +3  
野菜作りを農家で研修。  
化学肥料ですくすく育ったと思ったが、牛のフンも凄いとわかった。堆肥を使った農業なら村でもできそうだ。 +3  
課題はどうやって、村の人に伝えられるかだ

日本の人は目が回る程忙しそうだが・・・  
私が来てからホストファミリーは家族揃ってご飯を食べることが多かったようだ。 +1

洋裁の練習のため  
1回休み  
ホストファミリーのお母さんに洋裁、刺繍を習う  
☺☺これなら村のお母さん達も集まって来てくれるんじゃないかと期待膨らむ。 +2  
☺☺これから子供の洋服は自分で作れる。家計が助かる。 +1

21回もどろ  
PHDはお金持ちの人がやっているのだと思っていたが、いろんな人がたくさん集まってやることがわかった。村でもみんなが集まったら何かできるかもしれないと思った。 +3

湯あたりして  
1回休み  
ホームステイ先でお風呂に入る。  
☺☺私の村は水浴びの習慣なので、寒くても湯船につからず風邪を引き、心配をかける。 -2  
☺☺一番風呂に入り、出る時栓を抜いてほしいんじゅく。 -1  
☺☺銭湯が気に入って通いつめる +1

21回もどろ  
バックナンバー送ります。スゴロクの次は国際協力カルタ、皆様の知恵を待ちます。

今回の感想を待っています。スゴロク、カルタに続く企画も募集。スゴロク、カルタのアイデアも歓迎。FAXでの応募、FAXでの応募に限らず、郵送、FAXでの応募も歓迎。スゴロク、カルタに続く企画も募集。スゴロク、カルタのアイデアも歓迎。FAXでの応募、FAXでの応募も歓迎。



### 神戸のまちから

去る9月に阪神大震災地元NGO救援連絡会議に運営委員会が発足しました。

役割は二つ。連絡会議活動方針の策定、寄附金による財政運営の審議です。これで組織運営の枠組みが確定しました。

現在連絡会議は二つの分科会活動を中心に展開されています。

連絡会議発足直後から活動している「外国人救援ネット」は主として滞日外国人の医療費、弔慰金などの補償、生活相談などの支援活動を実施しています。今恒久的な組織づくりを考えています。

仮称「神戸外国人救援センター」のようなものです。

もう一つの分科会は「仮設住宅支援連絡会」です。現在既に23名ものひとびとが仮設住宅の中で孤独死しています。約40団体のグループが人も金も物も底をついた中必死でパトロールしながら頑張っています。この活動も息の長い働きを求められています。

サリン・オウム報道で震災は過去のものを受け取られがちですが、過去完了形ではなく現在進行形であることを覚えて頂きたいです。

来年1月17日前後は震災1周年記念行事が沢山計画されていることでしょう。しかし私たちは12月8日~10日多くの方

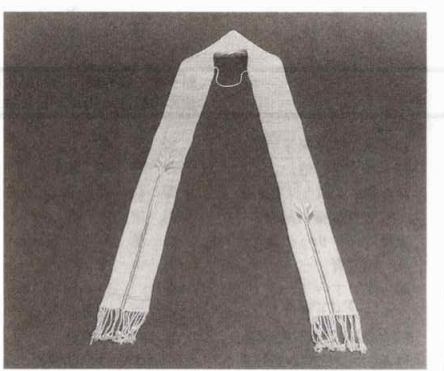
に神戸へ集まってもらって「いま」の状況を国内外に発信にしていこうと考えています。災害の救援、復興の「いま」はひとり被災地内の問題ではなく、すべての社会の問題であると考えているからです。

来年3月までこの連絡会議を続ける予定です。その後はとりあえず二つの分科会が独立しこの会議が生み出した組織として課題を継続して担っていく予定です。

PHDもまた長い苦闘を担います。皆様の継続したご関心をお寄せ下さい。

阪神大震災地元NGO救援連絡会議 代表 草地賢一

人たちが織り上げたそのままのものです。本来は2枚をはいで、スカートにしていたようです。筆入れなどの小さな袋、ナップサックなどの巾着袋といったかばんの類、クッションカバーなどに加工して使っていただくのもよし、ソファにかけるカバーとしてそのまま使うのも



よし、布をお使い下さる方の工夫によって使い方が広がると思います。

また八千代台教会（PHD協力団体・千葉県八千代市）からは、教会員の方が手製で牧師ガウン用の「ストール」を作って下さったと写真が届きました。ぜひ、皆さんも創意工夫を凝らしていただければと思います。

また、今年度のタイスタディーツアーに向けてカレンの布の様々な使用例を一つのアルバムにして村人に紹介したいと考えております。カレンの布に関するエピソード、ならびに写真を12月9日(土)までに送っていただけると嬉しいです。

### 〇月×日のPHD協会

職員 草地 仕事の場所は変わっても忙しいのは相変わらず。12月に行われる市民とNGOの防災国際フォーラムの準備で大忙しの毎日。

職員 藤野 レックス・バンドを迎えての神戸のコンサートでは舞台上で司会も担当。バンドメンバーと同じく顔にペイント、司会転じてJリーグサポーターに。

職員 小松 レックス・バンドの大阪公演でコウベ・タウン・ソングにコーラス嬢として加わる。ライブ・イン・大阪発売のあかつきにはPNG芸能界デビュー。

職員 吉岡 レックス・バンドの農業視察を引率。道中の演奏にと事務所にあったスマートラのタイコを積む配慮も。わしらのんと違うと見向きもされずガックリ。

## PHD NEWS

<会費・ご寄附託状状況>

1995年8月	100件	978,118円
9月	102件	11,971,906円
10月	63件	2,118,189円
	265件	15,068,213円

以上の通り、多くの皆様より会費とご寄附を頂戴いたしました。ご協力に厚くお礼申し上げます。

<ありがとうございました>  
9月28日、自動車総連より6年目の福祉カンパをいただきました。継続なるご支援に感謝申し上げます。

<学びと出会いの西日本研修旅行、あなたも日本を見つめ直すために>  
平和学習、社会学習と各地域の方々とのお交流を行う西日本研修旅行。

日程 1996年1月下旬~2月上旬  
予定コース 大分~北九州~福岡~水俣~長崎~広島~島根~鳥取(車にて)  
訪問者 13期生2名、職員

<会員拡大キャンペーン中間報告>  
新しいパンフレットを作成して、ご入会とご紹介をお願いしているキャンペーン。4月から9月までの半年で、震災の影響もありながら、一人一人のご協力をいただいて9月末現在で、  
終身維持会員 2名  
PHD会員 56名  
友の会会員 11名

計69名の方がご入会下さいました。ありがとうございます。今後ともPHDを紹介するためにパンフレットが必要でしたらご連絡下さい。必要部数をお送りします。引き続きご協力下さい。



職員 渡辺 ギャグの渡辺としての評価が高まる中、近畿地方台風襲来時の波浪警報発令に際し、自宅周辺ではグッバイ警報がでたと一発、株を上げる。

学生、奈奈ちゃん、震災のボランティア活動中に知り合ったベトナムの人から料理を教わり、ワンワールドフェスティバルのPHD食堂で好評を博す。

震災で閉店していた元職員しげみさんのアジア料理の店が、神戸・トアロード西に場所を移し復活。店の名は「トゥクトゥク」。旨い、安い、楽しい。

転職後松江で新聞記者稼業の元職員中尾さん、転勤で神戸へ。PHDと某新聞との癒着に期待大。

高校生時代、ボランティアとして出入りの有利子さん。結婚後横浜に移り、曹洞宗国際ボランティア会にご就職。震災関係の仕事で神戸に、久しぶりに来所。人材育成の一事例ってか。



今回このレターの編集後記を書くことになったのは、私です。いつもとってもお世話になっている主任主事から頼まれたものですから。この主任主事って、人前で話したり、レターに文章書いたりするとき、結構まともでマジメな感じなんですけど、実際は全然違うんです。とにかくチガウ。あの総主事だって、酒のんで話してみるとおもしろいおちさんなんです。ちょっと話は長いけど。だからレターからのイメージに固まらない方がいいですね。内容にウソはないですけど。

さて、昨年あたりからゲーム部会というのができて、オリジナルゲームでひと山当てて、PHDビルをおっ建てようと意気込んで

るんですが、どう考えてもスゴロクではビルは建たんように思えるんです。次はカルタなんですけど、これもビルには程遠い。でもゆくゆくは、ゲームソフトを開発して大儲けするつもりなんで、それまでは地球から滅亡せんように皆様、環境問題等にとりくんで下さい。

また最近、アジア南太平洋地域の優秀なアーティストを招いてコンサートをやってたりしてるんですが、ギャラのピンハネなんかしないから、儲からんです。かくして、ビルは果てしなく遠い…。

こんな私達だけど、FAXなんか利用して、遠くの方も色々参加して下さい。舞台裏はレターの千倍面白いですよ。

R

〈編集メンバー〉 石崎 好美  
伊東 奈奈  
柿原登志夫  
谷 朱子  
H、リッチー

新規会員・寄付者ご芳名は、  
個人情報保護のため  
掲載しておりません。